

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/09/03

ECBとFOMCの判断に注目

通貨ペア	基調		ページ数
ユーロ/円	➡	上昇余力には疑問だが・・・ 予想レンジ： 94.20円～101.50円	2-3
ユーロ/ドル	➡	米欧の金融政策が焦点に 予想レンジ： 1.2150～1.2850ドル	4-5
ポンド/円	➡	市場全体のリスク許容度次第 予想レンジ： 118.80 ～ 127.50 円	6-7
ポンド/ドル	➡	欧米の目玉材料を確認しつつ 予想レンジ： 1.5400 ～ 1.6300 ドル	8-9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



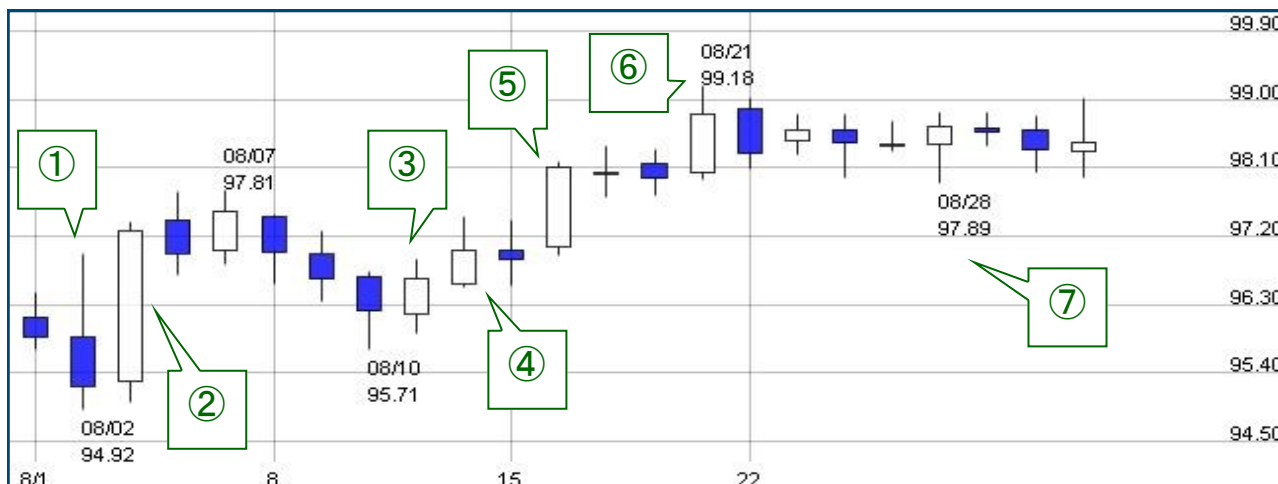
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

EUR/JPY

ユーロ/円 8月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	96.13円	99.18円	94.92円	98.44円



- | | |
|---|---|
| ① | 2日、欧州中銀 (ECB) が政策金利を0.75%に据え置くと発表した。一部で囁かれていた利下げは見送られたものの、総裁会見で(国債買い入れ再開などの)債務危機対応策が発表されるとの期待からユーロが上昇。ドラギ総裁が会見で「ECBは買い切り公開市場操作を実施する可能性がある」と発言すると瞬間的に96.97円まで値を上げたが、続いて総裁が「救済基金への銀行免許付与は政府次第」「独連銀総裁は債券購入に関して態度を保留」などと発言すると94.92円の安値まで急落した。 |
| ② | 3日、米7月雇用統計は失業率は8.3%と市場予想(8.2%)よりも弱い結果になったものの、非農業部門雇用者数は16.3万人増と予想(10.0万人増)を大幅に上回る結果となった。ユーロ/円は米雇用統計を受けたドル/円の上昇につれたほか、NYダウ平均先物が大きく上昇した事もあって97円台を回復。その後、米7月ISM非製造業景況指数が52.6と市場予想(52.0)を上回るとこの流れに拍車がかかり、97.39円まで上昇した。 |
| ③ | 13日、ギリシャの第2四半期国内総生産(GDP)が前年比-6.2%と市場予想(-7.0%)ほど悪い結果でなかったことから、ユーロが全面高となった。 |
| ④ | 14日、仏第2四半期GDPが前期比±0.0%、独第2四半期GDP・速報値は前期比+0.3%といずれも予想(-0.1%、+0.2%)を上回った事を好感してユーロが上昇。独8月ZEW景況感調査が-25.5と予想(-19.3)より弱い結果となり、弱含む場面もあったが、米7月小売売上高が前月比+0.8%と(+0.3%)を大きく上回った事を受けてドル/円が上昇すると、これに連れてユーロ/円も97.45円まで値を上げた。 |
| ⑤ | 16日、一部メディアが、米著名レポートの内容として「スペインが救済を要請すれば、スペインの債券市場に大規模な介入が入る」と伝え、ユーロ買いが優勢となった。さらにメルケル独首相が、先月のドラギECB総裁の「ユーロを守るために必要な事は何でもする」との考えを支持し、欧州首脳は正しい方向に進んでいるとの認識を示すと、ユーロ/円は98円台を回復した。 |
| ⑥ | 21日、メルケル首相率いる独CDUの議員が「(ギリシャの)サマラス首相が目標達成に意欲を示す限り、救済に関する幾分の譲歩は可能」と発言した事や、英紙がアスムセンECB専務理事の見解として「ユーロ崩壊を防ぎ欧州債務危機を転換させるために、大量の伊・西債購入を支持」と伝えた事を受けてユーロ/円は99円台を回復し、99.18円の高値を付けた。 |
| ⑦ | 28日、NZドル/円が急落した影響からユーロ/円も一時98円を割り込んで下落した。しかしその後は、スペインとイタリアの国債入札が好調に消化された事や、ドラギECB総裁が31日の米ジャクソンホールでの会合に欠席すると伝わった(9月6日のECB理事会に向けて問題国国債の買い入れなど債務危機対応策の詳細を詰めるためとポジティブに解釈された模様)事を受けて98.83円まで反発した。 |

EUR/JPY

今月のポイント

8月のユーロ/円相場は94.92円～99.18円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.5%の上昇(ユーロ高・円安)となった。8月のユーロ上昇の最大の要因は、欧州中銀(ECB)による問題国(特にスペイン)の国債利回り押し下げに向けた具体策への期待感であった。したがって、9月もユーロ/円の堅調推移が続くか否かについては、6日のECB理事会がカギを握ることになるだろう。ドラギECB総裁が7月に「責務の範囲内では何でもやる、私を信じてほしい」と発言して以降、ECBによる問題国の国債買い入れ再開は既定路線となっているが、8月の理事会では、バイトマン独連銀総裁の反対もあって実施を宣言できなかった。今回も、理事会を6日に控えバイトマン総裁の辞任のうわさが広がるなど、ECB内部の意見調整ができていない可能性がある。またECBは、国債買い入れについて欧州安定メカニズム(ESM)と協調して行う考えを示しており、独連邦憲法裁判所がESMの合憲性の判断を下す12日よりも前に行われる今理事会では買い入れ再開を宣言しない可能性もある。こうした足並みの乱れや対応の(意思決定までの)遅さがユーロ売り材料になることは過去の例を振り返るまでもないだろう。危機が迫るスペイン政府でさえも、ECBによる政策対応を見てから金融支援に踏み切るか否かを判断するとしており、あくまで他人任せの構えだ。仮に、ECBの政策対応が決まりスペインが金融支援要請に踏み切れれば、短期的にはユーロ買いが進む可能性もあるが、中銀の緩和姿勢強化や域内第3位の国による全面的かつ大規模な資金支援は中長期的にはユーロ売り材料であり、持続的なユーロの上昇にはつながらないだろう。(神田)

(予想レンジ:94.20-101.50円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
9/4(火)	8月米ISM製造業景況指数	9/12(水)	オランダ総選挙
9/5(水)	7月ユーロ圏小売売上高	9/13(木)	スイス中銀政策金利発表
9/6(木)	第2四半期ユーロ圏GDP・改定値		米FOMC政策金利発表
	欧州中銀金融政策発表	9/14(金)	8月米小売売上高
	8月米ADP全国雇用者数		8月米鉱工業生産
	8月米ISM非製造業景況指数		9月米シガン大消費者信頼感指数・速報値
9/7(金)	8月米雇用統計	9/18(火)	9月独ZEW景況感調査
9/9(日)	8月中国消費者物価指数	9/19(水)	日銀金融政策決定会合(18日～)
	8月中国鉱工業生産		8月米住宅着工件数
9/10(月)	4-6月期日本GDP・二次速報	9/20(木)	9月ユーロ圏消費者信頼感・速報
	8月中国貿易収支	9/25(火)	9月米消費者信頼感指数
9/12(水)	7月ユーロ圏鉱工業生産・季調済	9/26(水)	9月独消費者物価指数・速報
	独連邦憲法裁判所ESMの合憲性判断	9/28(金)	9月ユーロ圏消費者物価指数・速報

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

ユーロ/ドル 8月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.2303ドル	1.2637ドル	1.2133ドル	1.2582ドル



①	2日、欧州中銀(ECB)が政策金利を0.75%に据え置くと発表した。一部で囁かれていた利下げは見送られたものの、その後の総裁会見で債務危機対応策が発表されるとの期待からユーロが上昇。ドラギ総裁が会見で「ECBは買い切り公開市場操作を実施する可能性がある」と発言すると瞬間的に1.2405ドルまで値を上げたが、続いて総裁が「救済基金への銀行免許付与は政府次第」「独連銀総裁は債券購入に関して態度を保留」などと発言すると1.2133ドルの安値まで急落した。
②	3日、米7月失業率は8.3%と市場予想(8.2%)よりも弱い結果になったものの、非農業部門雇用者数は16.3万人増と予想(10.0万人増)を大幅に上回る結果となった。非農業部門雇用者数を好感してNYダウ平均先物が大きく上昇するとユーロ/ドルは買い優勢となった。その後、米7月ISM非製造業景況指数が52.6と市場予想(52.0)を上回るとこの流れに拍車がかかり、1.2392ドルまで上昇した。
③	16日、一部メディアが米著名シンクタンクのレポートの内容として「スペインが救済を要請すれば、スペインの債券市場に大規模な介入が入る」と伝えユーロ買いが優勢となった。さらに、独メルケル首相が「先月のドラギ欧州中銀(ECB)総裁の『ユーロを守るために必要な事は何でもする』との考えを支持。債務危機解決に向けたプロセスは速やかに進めることが重要だ」との見解を示すとユーロ/ドルは1.2371ドルまで上昇した。
④	21日、メルケル首相率いる独CDUの議員が「(ギリシャの)サマラス首相が目標達成に意欲を示す限り、救済に関する幾分の譲歩は可能」と発言した事や、英紙がアスムセンECB専務理事の見解として「ユーロ崩壊を防ぎ欧州債務危機を転換させるために、大量の伊・西債購入を支持」と伝えた事を受けてユーロ/ドルは1.2487ドルまで上昇した。
⑤	22日、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録で「多数のメンバーは、持続的な成長がなければ早期に追加緩和と判断」などと、追加緩和に前向きな姿勢が示された事を受けてドル売りが強まると、ユーロ/ドルは1.2538ドルまで上昇した。
⑥	31日、米ワイオミング州・ジャクソンホールで行われた講演で、米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長は「非伝統的政策を実施することを経済情勢が正当化する場合、追加資産購入を排除すべきではない」「労働市場の持続的改善のため必要に応じて追加緩和を実施」などと述べ、量的緩和第3弾(QE3)について前回のFOMC声明以上に踏み込んだ発言をしなかったことから、発表直後はドル高・ユーロ安に振れた。しかし、議長は引き続き雇用情勢などについて厳しい見方を示し、追加緩和に対する前向きな姿勢を崩したわけではなかったことから、すぐにドル売り・ユーロ買いが強まり、1.2637ドルの高値を付けるなど、ユーロ/ドルは乱高下した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

今月のポイント

8月のユーロ/ドル相場は1.2133ドル～1.2637ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.3%の上昇(ユーロ高・ドル安)となった。8月のユーロ上昇要因として挙げられるのは①欧州中銀(ECB)による債務危機対応策への期待、②米量的緩和第3弾(QE3)観測によるドル安、③欧州(特にドイツの)要人が夏休みを取っていたため悪材料が表面化しなかった事などであろう。

①に関しては9月6日の理事会で、ECBによるスペインなど国債利回りが上昇している国の国債買い入れ再開が期待されている。しかし、ECBは欧州安定メカニズム(ESM)と協調しての国債買い入れを目指しているため、ESMの独憲法に対する合憲性をめぐり、連邦憲法裁判所の最終判断が下される12日を前に動かない可能性もある。また、買い入れ再開に反対を表明している独連銀のバイトマン総裁の辞任のうわさが度々報じられるなど、6日の理事会で問題国の国債利回り押し下げに向けた具体策が発表されるか否かに不透明感が残る。

②については、米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長は、8月31日の講演でも「必要に応じて追加緩和を実施する」と従来通りのスタンスを示しながら、雇用情勢に厳しい警戒感をにじませており、7日の8月雇用統計が予想以上に弱い結果となれば12-13日の米連邦公開市場委員会(FOMC)で、QE3を含む追加刺激策が導入される可能性を残している。

9月のユーロ/ドル相場については、米・欧の金融政策を睨んだ神経質な展開が見込まれる。(神田)

(予想レンジ:1.2150～1.2850ドル)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

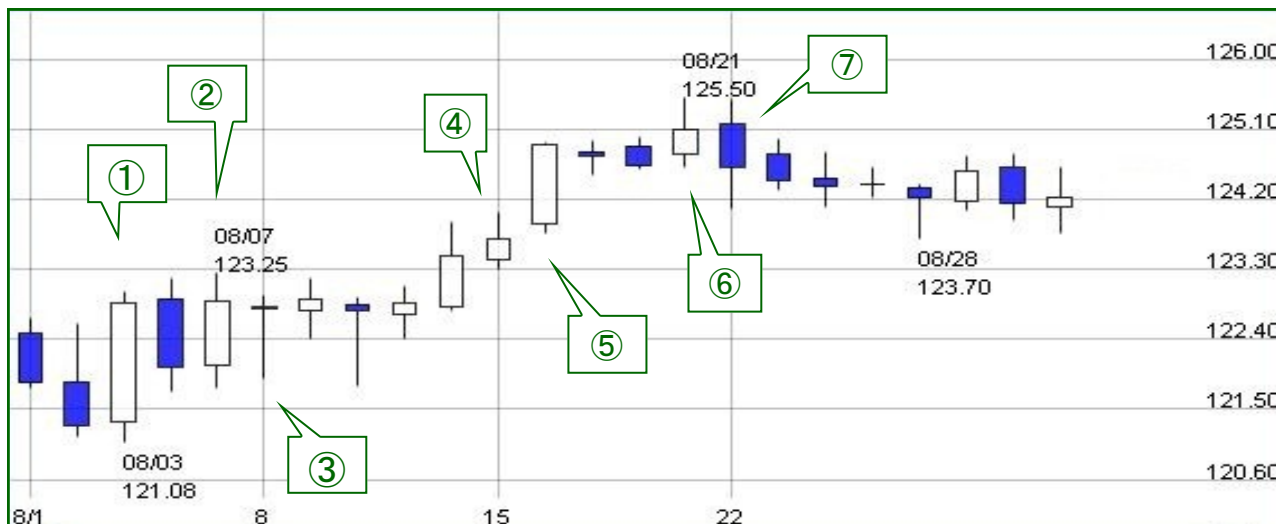
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
9/4(火)	8月米ISM製造業景況指数	9/13(木)	米FOMC政策金利発表
9/5(水)	7月ユーロ圏小売売上高	9/14(金)	8月米小売売上高
9/6(木)	第2四半期ユーロ圏GDP・改定値		8月米鉱工業生産
	欧州中銀金融政策発表		9月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	8月米ADP全国雇用者数	9/18(火)	9月独ZEW景況感調査
	8月米ISM非製造業景況指数	9/19(水)	8月米住宅着工件数
9/7(金)	8月米雇用統計	9/20(木)	9月ユーロ圏消費者信頼感・速報
9/9(日)	8月中国消費者物価指数	9/25(火)	9月米消費者信頼感指数
	8月中国鉱工業生産	9/26(水)	8月米新築住宅販売件数
9/10(月)	8月中国貿易収支		9月独消費者物価指数・速報
9/12(水)	7月ユーロ圏鉱工業生産・季調済	9/27(木)	9月独雇用統計
	独連邦憲法裁判所ESMの合憲性判断		第2四半期米GDP・確報値
	オランダ総選挙		8月米耐久財受注
9/13(木)	スイス中銀政策金利発表	9/28(金)	9月ユーロ圏消費者物価指数・速報

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

ポンド/円 8月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	122.47円	125.50円	121.08円	124.21円



①	3日、欧州株高を受けてポンド/円は上昇。さらに、米7月雇用統計において、失業率は8.3%と市場予想(8.2%)よりも弱い結果になるも、非農業部門雇用者数は16.3万人増と市場予想(10.0万人増)を大幅に上回ったことで欧米株が上昇すると、ポンド/円は一段高となった。
②	7日、スペインやイタリア国債利回り低下を好感してユーロ/円が上昇するとポンド/円も連れ高。さらに、東京市場中に格付け会社ムーディーズが「日本の消費増税が成立しなければ格付けにマイナス」との見解を示したことを受けた円売りもあり、ポンド/円は123.25円まで上昇した。
③	8日、格付け会社S&Pがギリシャの格付け見通しを「ネガティブ」に引き下げたこと、スペインの銀行格付け見通しをネガティブウォッチにしたことを受けてユーロ/円が値を下げる中、ポンド/円も下落。さらに、イングランド銀行(BOE)の四半期インフレ報告にて、2年後の英GDP伸び率は約2.0%前後の見通しと5月報告(約2.7%)から大幅に引き下げたことを背景に一段安となった。しかしその後、キングBOE総裁が「利下げは金融機関にダメージを与える可能性があり生産的ではない」「追加措置の差し迫った必要性は示唆されていない」などと発言すると目先の追加緩和観測が後退し、ポンドは急反発した。
④	15日、英7月失業率は予想通りの4.9%だったが、失業保険申請件数推移が-5900件と予想(+6000件)より良好だった上、英MPC議事録にて金融政策据え置きが全会一致で決定されたことが明らかになり、早期追加緩和観測が後退すると、ポンド買いが優勢となった。ただし、その後に発表された米経済指標に弱い内容のものが続きドル/円が失速したことから、ポンド/円も連れて上げ幅を縮めた。
⑤	16日、英7月小売売上高が前月比±0.0%(除自動車燃料)と、市場予想(-0.2%)より良好な結果となったことから、ポンドは上昇。その後、一部シンクタンクが「スペインが救済を要請すれば、同国債券市場に大規模な介入が入る」との見方を示したことや、メルケル独首相がドラギECB総裁の「ユーロを守るために出来ることは責務の範囲ないで何でもする」との発言について支持する立場を表明したことからユーロ/円が大幅に上昇すると、ポンド/円は124円台後半まで値を伸ばした。
⑥	21日、英紙にアスムセンECB専務理事の「ユーロ崩壊を防ぎ欧州債務危機を転換させるため、大量の伊・西債購入を支持」という見解が掲載された事を受けて欧州株が上昇すると、125.50円まで上昇した。
⑦	22日、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録によって「多数のメンバーは持続的な成長がなければ早期に追加緩和と判断」「多数の参加者が新大規模資産購入は有効と期待を表明」などの議論の内容が明らかになると、早期の追加緩和観測が高まり、ドル/円が急落。ポンド/円は一時124.08円まで連れ安となった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP / JPY

今月のポイント

8月のポンド/円相場は121.08円～125.50円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.4%の上昇(ポンド高・円安)となった。この月のポンド/円相場は、上旬は市場参加者が夏季休暇入りしている影響で動きに乏しかったが、中旬に欧州債務問題についてやや楽観的なムードが広がると上昇した。ただ、米連邦公開市場委員会(FOMC)後の米国の主要経済指標が比較的堅調だったことで、議事録の内容は追加緩和に比較的前向きなメンバーが多かったにも関わらず、目先の量的緩和第3弾(QE3)の必要性を否定するFOMCメンバーが徐々に目立ち始め、9月FOMCに対する不透明感が強まったことがポンド/円の上値を押さえた。

9月のポンド/円は金融市場全体のリスク許容度の拡大・縮小を眺めながらの展開となりそうだ。市場の関心は米国のQE3について「9月導入か10月以降の導入か」という点、欧州については欧州安定メカニズム(ESM)についてのドイツの合憲判断とオランダの総選挙、そして問題国の国債買い入れ再開の行方などに集まっている。英国の金融政策が9月は据え置き公算が大きいことから、9月のポンド/円については英国独自の材料に対する反応は限られ、これら欧米の材料を軸に取引されよう。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 118.80～127.50円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
9/3(月)	8月英PMI製造業	9/11(火)	7月英商品貿易収支
9/4(火)	8月英PMI建設業	9/12(水)	8月英雇用統計
	8月米ISM製造業景況指数		ESMについて独連邦憲法裁判所の合憲性判断
9/5(水)	8月英PMIサービス業		オランダ総選挙
9/6(木)	BOE政策金利発表	9/13(木)	FOMC政策金利発表
	欧州中銀金融政策発表	9/14(金)	8月米小売売上高
	8月米ADP全国雇用者数	9/18(火)	8月英消費者物価指数
	8月米ISM非製造業景況指数		7月米小売売上高
9/7(金)	7月英鉱工業生産	9/19(水)	日銀金融政策決定会合(18日～発表)
	8月英生産者物価指数		BOE議事録
	8月米雇用統計	9/20(木)	8月日通関ベース貿易収支
9/10(月)	4-6月期日GDP・二次速報		8月英小売売上高指数
	7月日経常収支	9/27(木)	第2四半期英GDP・確報値

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

ポンド/ドル 8月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.5675ドル	1.5910ドル	1.5488ドル	1.5872ドル



①	1日、欧州株高を受けてポンド/ドルは1.5688ドルまで上昇するも、英7月製造業PMIが45.4と予想(48.4)を下回ったことで失速。さらに、米連邦公開市場委員会(FOMC)の声明で事前に期待されていたような「異例の低金利に据え置く期間」を延長しなかったことを受けたドル買いが入ると一段安となった。
②	2日、欧州中銀(ECB)のドラギ総裁の記者会見前に、同総裁が欧州債務問題について追加措置を発表するのではとの期待感から欧州株が上昇するとポンドは上昇。さらに、ドラギECB総裁が会見で「ECBは買い切り公開市場操作を実施する可能性がある」と発言し、ユーロ/ドルがこれを好感して急騰すると1.5677ドルまで連れ高した。しかし、買い切り公開市場操作の実施時期や規模については言及されなかったことからユーロ/ドルが失速すると、ポンド/ドルも反落。1.5488ドルまで値を下げた。
③	3日、米7月失業率は8.3%と市場予想(8.2%)よりも弱い結果になるも、7月非農業部門雇用者数は16.3万人増と市場予想(10.0万人増)を大幅に上回り、欧米株が上昇すると、ポンド/ドルも上昇した。
④	8日、格付け会社S&Pがギリシャの格付け見通しを「ネガティブ」に引き下げたこと、スペインの銀行格付け見通しをネガティブウォッチにしたことを受けてユーロ/ドルが値を下げると、ポンド/ドルも下落。さらに、イングランド銀行(BOE)の四半期インフレ報告にて2年後の英GDP伸び率は約2.0%前後の見通しと5月報告(約2.7%)から大幅に引き下げたことを背景に一段安となった。しかしその後、キングBOE総裁が「利下げは金融機関にダメージを与える可能性があり生産的ではない」「追加措置の差し迫った必要性は示唆されていない」などと発言すると目先の追加緩和観測が後退し、ポンドは急反発した。
⑤	15日、英7月失業率は市場予想通りの4.9%だったが、失業保険申請件数推移が-5900件と予想(+6000件)より良好だった上、MPC議事録にて金融政策据え置きが全会一致で決定されたことが明らかになり、早期追加緩和観測が後退すると、ポンド買いが優勢となった。ただし、その後に米経済指標に弱い内容のものが続き、米国株が冴えない展開になったため、ポンド/ドルの上値は限られた。
⑥	22日、FOMC議事録によって「多数のメンバーは持続的な成長がなければ早期に追加緩和と判断」「多数の参加者が新大規模資産購入は有効と期待を表明」「多くのメンバーが2014年終盤までとしている政策金利見通しの長期化を支持し、9月の会合まで決定を先延ばしする事で合意」などの議論の内容が明らかになると、早期の追加緩和観測が高まり、ドルが急落。ポンド/ドルは大幅高となった。
⑦	31日、夕方にまとまった規模のユーロ買い・ドル売りによってユーロ/ドルが上昇すると、ポンド/ドルも連れ高した。米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長がジャクソンホールでの講演で「必要なら追加金融緩和に動く」との姿勢を改めて示すとドル売りが強まり、1.5894ドルまで上昇したが、目新しさに乏しく、その後は上値の重さが目立った。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP / USD

今月のポイント

8月のポンド/ドル相場は1.5488ドル～1.5910ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.3%の上昇(ポンド高・ドル安)となった。この月のポンド/ドルは、中旬くらいまでは夏季休暇で市場参加者が少ない中で方向感に乏しい相場が続いたが、メルケル独首相が欧州中銀(ECB)のドラギ総裁が7月に「ユーロを守るために責務の範囲内で何でもする」とした発言を支持する姿勢を示したことを受けたユーロの上昇や英国の目先の追加金融緩和期待の後退などを背景にポンド高・ドル安が進んだ。

9月の英国の金融政策は維持される公算が大きく、ポンド/ドルの主な変動要因は「欧州債務問題」と「米国の金融政策」になるだろう。

米国については、12-13日に開催される米連邦公開市場委員会(FOMC)での量的緩和第3弾(QE3)導入の有無と、なかった場合は声明やその後のバーナンキFRB議長の会見で10月FOMCでの導入の可能性が示唆されるかどうか焦点になるだろう。まずは米8月雇用統計(7日)の発表内容を確認し、9月導入の可能性を探る流れが予想される。

一方、欧州債務問題については、12日のドイツ連邦憲法裁判所による欧州安定メカニズム(ESM)の合憲性判断とオランダの総選挙に注目が集まる。ドイツでESMが合憲と判断され、かつオランダでは緊縮財政派の政党が過半数の議席を確保できれば、目先の欧州債務問題に対する不安は後退し、株高→ポンド/ドル上昇、という流れになりそうだ。もちろん、先行き不透明感を強めるような結果となれば、ポンド/ドルは不安定な動きとなるだろう。(ジェルベズ)

(予想レンジ:1.5400～1.6300ドル)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
9/3(月)	8月英PMI製造業		ESMIについて独連邦憲法裁判所の合憲性判断
9/4(火)	8月英PMI建設業		オランダ総選挙
	8月米ISM製造業景況指数	9/13(木)	FOMC政策金利発表
9/5(水)	8月英PMIサービス業	9/14(金)	8月米小売売上高
9/6(木)	BOE政策金利発表		8月米鉱工業生産
	欧州中銀金融政策発表		9月米シガン大消費者信頼感指数・速報値
	8月米ADP全国雇用者数	9/18(火)	8月英消費者物価指数
	8月米ISM非製造業景況指数		7月米小売売上高
9/7(金)	7月英鉱工業生産	9/19(水)	BOE議事録
	8月英生産者物価指数	9/20(木)	8月英小売売上高指数
	8月米雇用統計	9/25(火)	9月米消費者信頼感指数
9/11(火)	7月英商品貿易収支	9/27(木)	第2四半期英GDP・確報値
9/12(水)	8月英雇用統計	9/28(金)	9月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。